科目名	特別講座４							年度	2026
英語科目名	Special Lecture 4							学期	後期
学科・学年	ＡＩシステム科 ２年次	必／選	選	時間数	15	単位数	1	種別※	講義
担当教員	安孫子　かおり		教員の実務経験			実務経験の職種			

【科目の目的】

学生が最新技術動向を業界のプロフェッショナルから聴講し、見識を広めることを目的とする。ITの技術は転換期にあるため、今後必要とされる人材は、知的好奇心を持ち、興味を持った事柄についてはその深層まで探究することができる人間である。さらに、多様性が求められる昨今、学生とは異なる環境にいる人との交流を持つことが多様な価値観を持つ他者への理解につながる。本講義では学生の知的好奇心を刺激すること、他者に対する想像力、発想力を養うことができる。

【科目の概要】

本講義では外部講師による講義となるため、各講師ごとに事前調査、聴講、聴講結果報告の3ユニットで実施する。聴講内容の理解がより深まり有意義なものとなるため、事前調査は必ず行い、重視する。授業時間外での主体的な予習も奨励する。学生の知識定着のため、聴講しただけで終わらず、必ず聴講結果レポートも作成する。外的環境との関わりにおけるビジネススキル向上を意識し、受講マナーについても指導を行う。

【到達目標】

学生が本講義を聴講することで、最新技術動向に深く関心を持ち、主体的に勉強会、カンファレンス等に参加するようになることを目標とする。さらに、就職活動をする上で学生自らの目指す業界、人材像を定めることができるようにする。ダイバーシティーが求められる時代に沿って多様な価値観を持つ他者に対して、想像力を持って接し、思いやりを持つことを目指す。聴講レポート作成を通して文章作成能力を向上させ、情報を整理して発表するための論理的思考力を養うことを目標とする。

【授業の注意点】

本講義では学生が主体的に学習する姿勢を重視する。具体的には事前調査の精度、外部講師への積極的な質問、関わりを評価する。聴講後のレポートには、聴講内容を羅列するだけではなく、自らの考えや新たに学習した事柄について調査した結果等を記載することを求める。講義に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。ただし、授業時数の４分の３以上出席しない者は成績評価することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル３ 優れている	レベル２ ふつう	レベル１ 要努力
到達目標 A	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的に勉強会に継続的に参加している	最新技術動向に関心を持ち、勉強会に参加したことがある	最新技術動向に関心を持たず、主体的に勉強会に参加したことがない
到達目標 B	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的にカンファレンスに継続的に参加している	最新技術動向に関心を持ち、カンファレンスに参加したことがある	最新技術動向に関心を持たず、主体的にカンファレンスに参加したことがない
到達目標 C	就職活動をする上で自らの目指す業界、人材像を定めることができる	就職活動をする上で自らの目指す業界を定めることができる	就職活動をする上で自らの目指す業界、人材像を定めることができない
到達目標 D			
到達目標 E			

【教科書】

毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、講義毎に指示する。

【参考資料】

無し

【成績の評価方法・評価基準】

以下の事項を総合的に評価する。
・課題の提出状況、課題から判断する授業理解度、授業出席率、授業への参加態度

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	特別講座４	年度	2025
英語表記	Special Lecture 4	学期	後期

回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	事前調査	聴講テーマにそった事前知識を調査し、情報を整理することができる	1	調査方法	必要な情報を得るための調査方法を身に着ける	3	
			2	事前調査	聴講テーマに沿った事前知識を習得する		
2	事前調査報告	事前調査によって整理した情報を他者と共有するために説明、発表することができる	1	発表方法	調査した情報を整理しまとめる力を身に着ける	3	
			2	調査報告	事前調査した情報を他者に効果的に説明、発表できる		
3	聴講	知的好奇心をもって聴講し、見識を深め、テーマについて深層まで探究することができる	1	聴講方法	聴講するときの態度について理解する	3	
			2	聴講	聴講テーマに関する知識を習得する		
4	聴講結果報告	聴講内容を振り返り、新たな知識を定着させることができる	1	報告作成方法	聴講した情報を整理しまとめる力を身に着ける	3	
			2	聴講報告作成	聴講テーマについて体系的に整理し知識を定着させる		
5	聴講結果報告・まとめ 結果報告	自ら調査した事柄を他者と共有するために、情報を整理して説明することができる	1	報告方法	他者との情報共有の方法を理解する	3	
			2	聴講報告	聴講した情報を他者に効果的に説明、発表できる		
6							
7							
8							
9							
10							
11							

12							
13							
14							
15							
評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							